

会議結果報告書

令和7年12月15日

会議の名称	第2回産前産後サポート部会	
種別	<input checked="" type="checkbox"/> 附属機関 <input type="checkbox"/> 懇話会等	
開催日時	令和7年11月21日(金) 13時30分 ~ 15時30分	
開催場所	中総合会館 3階集団健診室	
出席者	上野和美、永木ひとみ、谷口英子、山根亜由美、尾崎美希、小幡彰一、埜村彩、片山庄子、新宮美紀、坂野智美 事務局(尾橋淳子、船原理恵子、本田さえり、真下知子)	
議題	産前・産後サポート部会 (1) ほっこりサポート事業の報告 (2) 産科医療機関・助産院から妊婦さんへの説明事項について (3) 提案(産前産後プランシート案について)	
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開	
	<input type="checkbox"/> 部分公開	[理由]
傍聴者数	0名	
審議結果 及び 主な意見等	別紙参照	
会議録の作成様式	<input type="checkbox"/> 詳細 <input checked="" type="checkbox"/> 要約	
備考		
担当課	舞鶴市 健康・こども部 こども家庭しあわせ課 TEL (0773) 68 - 9155	

第2回 舞鶴市子ども・若者支援会議 産前・産後サポート部会 議事録(要約版)

日 時:令和7年11月21日(金)13時半～15時半

場 所:舞鶴市中総合会館

参加者:別紙のとおり 委員10名 事務局4名

1.議事等:

「ほっこりサポート」事業の進捗報告、産科医療機関等の説明内容の共有、子ども家庭センターが伝えるべきことの明確化、及び関係機関の取り組みを繋げる方法の検討。

現状と課題:

- 支援サービスは充実したが、情報が届かず、利用できていない人がいる。支援が必要な方へ確実に情報を届け、サービスへ繋げる必要がある。
- 今の自分に必要なケアを正しく選択できるような情報発信が必要。
- 「ほっこりサポート」への妊娠中からの参加促進。
- 周囲に頼れる人がいない中で一人で抱え込み、心身の不調を引き起こすケースへの対応。

2. ほっこりサポート事業の進捗と課題

- ・活発な赤ちゃんへの対応が難しく、参加人数を最大8名程度に制限。
- ・妊婦の参加が非常に少ない(1人だと不安でキャンセルも)。妊婦が一人でも参加しやすい場 の設定が大きな目標。
- ・人気で定員6名がわずか5分で満員。リピーターが多く、「本当に今しんどい」新規利用者に 支援が届いていない懸念。当日キャンセルによる資金繰りの難しさ。妊婦の参加はこれまで1 名と少なく、実態はほぼ産後サポート。
- ・妊婦の参加が少ない(6月・10月ともに1名)。情報が届いていない、必要性を感じられてい ない。キャンセルによる補助金確保の困難さ。来年度は妊婦と産後4ヶ月頃までを対象とした 複合的な開催を検討中。

事業全体に共通する課題:

- 産後利用が多く、妊娠中からの参加・妊婦と産婦の交流が不足。
- 初めて利用する方への呼びかけ方や、平日開催の曜日設定の見直しが必要。
- 需要と供給が取れておらず、本当に支援が必要な方への道筋のつけ方が課題。

クーポン運用課題:

- 産後ではなく、妊娠中にクーポンを配布することで紛失を防ぎ、利用を促す。
- 妊娠中に使えるクーポンと産後に使えるクーポンを2枚発行し、早期利用と使い切りを意識させるという提案有。

3. 産科医療機関・助産院から妊婦さんへの説明事項

実施時期と内容	課題・注力点
10～12週頃パンフレット配布。健診後に助産師が1対1で30分～1時間対応。	集団指導ができていない(妊婦同士や旦那さんとの交流の場が持てない)。
妊娠8～10週頃パンフレット使用。母子手帳交付、家族背景、サポートの有無を時間をかけて話す。	気にかけるべき方を抽出し、こども家庭センターへ繋ぐことを重視。
前期・後期で1時間半ずつ栄養指導・医学的指導(医師・栄養士)。	精神的にサポートが必要な方、うつ傾向の方が多い。お母さんの愛着形成のサポートに注力し、トラウマを残さないお産のために呼吸法やアロマを取り入れた精神的な話をしている。
ハイリスクが増加(心の問題、核家族化、地域との繋がりが希薄化)。	母が心身ともに健康で主体的に安心して産後の生活ができることを目的とし、家族ごとどう支えるかを注力。妊娠中に地域資源を利用し、困ったときに助産院を思い出してくれるような繋がりを重視。

4. 支援プランシートへの提案事項(主な抜粋)

- **相談体制の充実:**「助産師さんとはなす会・相談」を「助産師さんとの交流」に変更。まいココでの相談増加を受け、相談体制を充実させる。
- **メッセージ性の強化:** 産前産後サポートに来れない人にも届くよう、「自分を大切にしていんだ」といった心温まるメッセージや、産後ケアを誰もが利用していいと思えるメッセージを入れる。
- **休息の推奨:** 産後1ヶ月間は「家事や簡単な食事の支度」といった細かすぎる記述を避け、「できるだけ入院中と同じような生活」といったざっくりとした表現にし、具体的な家事の強制的なイメージを減らす。
- **父親への配慮:** 育児休暇を取得する父親が増えている現状を踏まえ、「お父さんがどうしたらよいか」という男性の意見を盛り込んだ具体的なアドバイスやコメント追加。
- **早期利用の促進:** 「困っていることがあったら早めに訪問依頼する」といった一言を加え、新生児訪問を早めに来てもらえるよう促す。
- **情報伝達の工夫:** クーポンのことを分かりやすく記載し、妊娠中と産後で使えるクーポンを分けて配布時期や方法を検討する。QRコードを利用し、まいココなどのアプリで詳しい情報が見られるようにする。
- **ユニバーサルデザイン:** 色を整える、見出しや項目を整えるなど、プランシートのユニバーサルデザインを考慮し、見やすいように改善する。
- **個別化:** シートに予定日や名前を記入できる欄を設け、支援者がこれを用いて「今やったらここ行ってみたら」といった個別のお勧めができる「自分だけのシート」として活用できるようにする。

5. 閉会 次回 令和8年2月予定